



お悩み解決！ タイプ別メンテ羅針盤

ぶっちゃけどこまで
手を入れればいい？

W210 はいわゆるメンテナンスフリーのクルマ。だが、中古車となった現在ではそう簡単にはいかないのは誰もが知るところだろう。しかし、このメンテフリーというのがやっかいなもので、実際どこまで手を入れるべきなのかが難しい。ということで、困った時はプロに相談だ！

文= GERMAN CARS 撮影=古閑章郎 協力=セントラルオート(TEL.03-3883-9922)

最近増えてきたのが純正キセノンの不良で、ヘッドライトが突然消えてしまうのが症状。バラスタがダメになってしまうことが多いとのこと。



定番のクランクプリー不良は減ってきたが、最近ではアイドルプリーがダメになってしまうこともあるとか。点検時には必ず見てもらおう。



突然燃費が悪くなった、いまいちエンジンの調子が良くないという時にはオーツーセンサーがダメになっていることが多い。



EPSの警告灯が突然点灯する場合に多いのがステアリングアングルセンサーの不良。EPSが点灯したら早めにコンピュータ診断を受けたい。



エラーコードを目安としたメンテプランを立てよう

電子制御化が進み、診断機に繋げることでトラブルの原因特定が容易になったW210。メンテナンスフリー化による恩恵は、各パーツの信頼性を高め、大量生産に対応するための品質や耐久性の均一化も図れている。もちろん消耗品は定期的な交換が必要。これでトラブルが出なければ問題ないのだが、デビューから10年以上が経過し、経年劣化によるトラブルが発生しているのが現状だ。そこで問題となるのが、どこまで手を入れるべきかということ。W124などのアナログなクルマなら、

予防的なメンテナンスがトラブルを未然に防ぐコツなのだが、それはこの世代ならではの「トラブルの前兆」があるからだ。高度に電子制御化されたW210では突然エンジン不調になったり、燃費が悪化したりすることが多い。それだけに壊れてから直すというユーザーが多いのも頷ける話だ。

「どこまで手を入れるかということですが、定期的なコンピュータ診断と、センサー系のトラブルに注意しながら、消耗品の交換サイクルをきっちり守っていけば安心して乗り続けられると思います。信頼性を高めるなら

定期的なCP診断を受ける

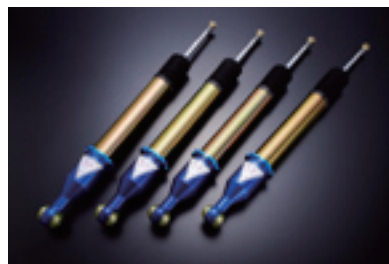
「これ以上性能を目指すのも面白い。」

突然のトラブルを避けるためのポイント

信頼性向上プラン

STEP UPプラン

W210をもっと楽しくしたい人はこっち！



W210 E55専用設計となる「210ファンクション」。全長調整と6段階の減衰調整が可能。純正より安価なもの嬉しいポイント。



サスペンション左右のピボット部を連結することで、剛性を生み出すトルクロッドバー。基本的にボン付けができるお手軽チューンだ。

W210の走りに剛性感を出すためにはどうしたらいいの!?

W124に近づけるのは難しい!?

「これまでW210の剛性アップのために試行錯誤してきましたが、W124のような剛性というのはクルマの基本的構造が異なるため難しいというのが正直なところです。例えばですが、ウレタンを注入したり、ボルト留めされているサブフレームを溶接したりすれば剛性は高まるはずですが、あまり現実的ではないですね。これからもっと考えていかなければなりません。」

教えて見玉さん!

